



壁画 (14 世紀)
王の教会 セルビア

ヨシヤ王の時代(640-608BC)に、と年代を明記し、自らの系譜を4代も遡って記した、ゼファニアが登場してきます。理性的で、几帳面で、家柄の良い家庭に育った、紳士的な穏やかな人物であろうと想像します。でも、彼はいきなりわたしは地の面から すべての一掃する、と主は言われる(1:2)と激しい預言を始めます。

人間、獣、鳥、魚など、神に逆らう者はすべて、取り去られる。エルサレムの全住民、神官、祭司、異教の礼拝者、高官、王の子たちなど主に背を向ける者はすべて、罰せられる。魚の門、ミシュネ地区、もろもろの丘、マクテシュ地区の商人たち、両替人たちすべて、神を恐れない者は荒れ果てる。「主の日」が来れば破滅すると、「主の日」、「その日」を10回重ねて強調しながら、神の怒りを告げているのです。

ゼファニアはエルサレムに住む全ての人をどれだけ気にかけていたことでしょうか。隅々まで目を配り、神の前に恥ずかしくないように生きよと勧めています。そして、主の燃える怒りがお前たちに臨まぬうちに。主の怒りの日がお前たちに望まぬうちに。主を求めよ。(2:2-3)と、改悛し、恵みの業を行い、苦しみに忍ぶようと勧めているのです。

いっぽう、エルサレム周辺の諸国、ガザ、アシュケロン、アシュドド、エクロン、カナン、ペリシテ、モアブ、アンモン、クシュ、アッシリアの人心の荒廃を指摘し、自らの罪のゆえに滅亡すると預言します。このことが彼らに起こるのは、彼らの傲慢のゆえであり、万軍の主の民を嘲り、驕り高ぶったからだ。(2:10)イスラエルの信仰を嘲り、傲慢であったことが罪だと理由を告げます。

激しい預言をした後で、ゼファニアはエルサレムの人々のすべての罪、繰り返される罪を思い返し、必ず裁かれ、焼き尽くされると苦しみます。神は民を罰し、裁かれますが、裁きの日は、同時に、「主の日」です。神は憐んでくださると信じます。

諸国に対してその後、わたしは諸国の民に／清い唇を与える。彼らは皆、主の名を唱え／一つとなって主に仕える。クシュの川の向こうから／わたしを礼拝する者／かつてわたしが散らした民が／わたしのもとに献げ物を携えて来る。その日には、お前はもはや／わたしに背いて行った、いかなる悪事のゆえにも／辱められることはない。(3:10)と神の思いを伝えます。

エルサレムの住民に対してわたしはお前の中に／苦しめられ、卑しめられた民を残す。彼らは主の名を避け所とする。イスラエルの残りの者は／不正を行わず、偽りを語らない。その口に、欺く舌は見いだされない。彼らは養われて憩い／彼らを脅かす者はない。(3:12)と救いを知らせます。

ゼファニアは「終わりの日」は「主の日」と確信したのです。申命記4章30節にこれらすべてのことがあなたに臨む終わりの日、苦しみの時に、あなたはあなたの神、主のもとに立ち帰り、その声に聞き従うとあり、イスラエルは世の終わりに神の審判が下ると信じてきました。すべてが裁かれる、恐ろしい日ですが、同時に神の公正な裁きがなされる日です。エゼキエルは神を知る日、ホセアは主とその恵みに畏れをもって近づく日と記しています。エゼキエル、ヨエル、ゼファニアは「主の日」と呼びかえて、新生、復活を信じる日として理解しています。ゼファニアは「苦しめられていた者、足の萎えていた者、追いやられていた者」にも目を留めています。神が回復させてくださることを信じ、娘シオンよ、喜び叫べ。イスラエルよ、歡呼の声をあげよ。娘エルサレムよ、心の底から喜び躍れ。(3:14)と、喜びの預言になったのです。